

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

番外編：紡毛機
ぼうもうき

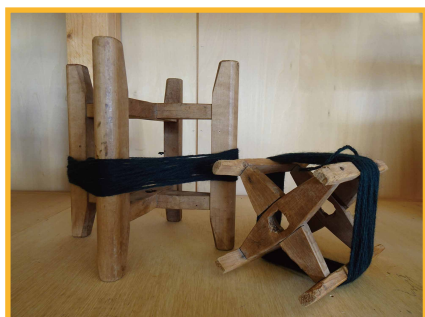
前々回より学校に関する記事をお届けしていましたが、町民の方より紡毛機の使い方を教えてもらう機会があったので、今号はその時に聞き取った内容をご紹介します。

紡毛機は羊から刈り取った毛を糸にするための道具です。11月29日に開拓財産展示施設で80代の女性2名の説明の下、施設の民具である紡毛機が動かされました。再現してみたのは、①ボビンに巻いてある導き糸に羊毛を巻き付ける ②羊毛を^よ撚りながらペダルを踏み、リールを回転させる ③羊毛が糸状になりボビンに巻き取られて行く、という作業です。

その後は、ボビンに巻かれた毛糸を糸巻機に巻き直したものを3セット用意し、3本の毛糸に撚りをかけながら紡毛機で1本にしたそうです。そして、毛糸を蒸し器に入れて3本の糸同^{そめこ}士をくっつきやすくしました。染粉で煮て着色しますが、色



▲紡毛機



▲糸巻機

を抜けにくくするために酢を入れました。毛糸が完成するとセーターなどを編んだそうです。昭和30年代後半になると化学繊維が普及し、紡毛機を使用する機会は急速に減少していきました*。現在では個人の趣味やワークショップなどで紡毛機を使用する機会があるようです。

(廣岡絵美)

*北海道開拓記念館 監修 1993『北海道の民具』参照

毛糸を紡いだ70年前頃は、自分で羊毛を洗っていました。現在の市販の羊毛はとてもきれいに洗われていますが、自分で洗った羊毛には適度な脂気が残っていました。そのため紡ぎやすく丈夫な糸を作ることができたと思います。



【町内在住 80代の女性】



▲紡毛機を動かしているところ



▲糸巻機も使ってみました



▲地域の方々の交流の場となりました



開拓財産展示施設 見学のご案内

【開館日時】 *変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00
上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892
または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

